

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：静岡県東伊豆町

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

・元公立幼稚園長1名を幼児教育アドバイザーとして1市5町で共同設置。地域内の幼児教育施設13園、小学校16校を訪問し、教育・保育の質向上のために指導・助言を行いながら、幼保小の架け橋プログラム策定の準備を進めた。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・幼児教育施設及び小学校の巡回訪問、要請訪問
- ・園長会、研修会等での講師、研修視察の受け入れ、文科省意見交換会での発表等
- ・幼小接続推進研修会の企画・運営

【取組内容の具体的な事例】

＜幼児教育施設、小学校への巡回訪問＞

- ・1市5町の13園を訪問。「子どもの興味関心をとらえた保育が展開されているか」「子どもたちが、自分の思いを出しながら遊びや活動に取り組んでいるか」という視点。
- ・小学校16校を年1回訪問。園で育まれたよさが小学校でどのように発揮されているかという視点で授業を参観。

小学校訪問事後研修の様子



- ・事後研修…指導案から先生方の思いを読み取り遊びの中の学びをとらえ、教育要領を踏まえながら実践について具体的に助言する。

＜要請訪問＞・小学校、幼児教育施設からの要請に応じて実施。令和7年度は51回開催した。テーマは「教育育要領等の内容」、「国の動向と県の方向性」「造形活動への指導」、「小学校教育を見通した架け橋期のカリキュラム」など。

＜幼小接続推進研修会等の開催＞

- ・幼児教育アドバイザーによる講義や演習を実施した。

賀茂地区幼保小接続研修会の様子



若手保育教諭の演習の様子



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：静岡県静岡市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

本年度より幼児教育センター設置に伴い、3名の幼児教育アドバイザーを配置。就学前施設からの要請や説明を兼ねた訪問指導を今年度は167園行った。また、公開保育・公開授業や合同研修を実施している。しかし、学校との意識の違いや地域差等の課題があるため、今年度は市の方向性を示したガイドラインを作成した。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・教育保育の相互理解を目的として「園に向けた公開授業」「学校に向けた公開保育」
- ・静岡市「幼保小接続ガイドライン」の作成
- ・合同研修「子どもの育ちと学びをつなぐ研修会」の実施
- ・各施設類型代表者による「幼小接続会議」の実施

【取組内容の具体的な事例】

＜園に向けた公開授業・学校に向けた公開保育＞

教育・保育の相互理解を目的に、全市立小学校と幼児の在籍している就学前施設を対象に実施した。小学校では、96.2%78校で実施し延べ344園が参観している。就学前施設は、92%で162園が計画した。参観があり実施可能となったのは70%117園になっており332人が保育参観をした。本取組からは、互いの教育・保育の理解や幼保接続意義の広がりが成果として挙げられる。

＜合同研修「子どもの育ちと学びをつなぐ研修会」＞

今年度は、東海大学の寶来生志子（氏）を講師に招き「みんなで伴走し、育てよう！静岡の子どもたち」の演題でご講演をいただいた。後半は、近隣園の園小のグループでの協議時間とした。協議1では「子どもの姿からの10の姿の読み取り」協議2では「研修を振り返り学区で進めたい取組」について協議を行った。子どもの姿を中心に語り合うことで、教育・保育の理解が深まるとともに、近隣園・校が交流できる機会となった。

＜幼小接続会議の実施＞

教育委員会・幼児教育センター、小学校校長会・市立こども園・私立幼稚園・私立こども園・私立保育所の代表が今年度の取組や今後の方向性について協議を行った。課題を整理し本市の方向性を共有し、次年度の取組を確認することができた。

＜幼保小接続ガイドラインの作成＞

現在の幼保小接続に関する課題改善や方向性の整理を目的に教育委員会とガイドラインを作成した。次年度に全小中学校と幼児の在籍する園に配布し進めていくことで、連携先の明確化や意義の共有、接続期のカリキュラム作成を行っていく。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：静岡県藤枝市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

- ・策定委員会や担当者連絡会を開催し、幼保こ小接続のための手引書「ふじえだ かけはし BOOK」の周知を行う。
- ・小学校区ごとの特色を反映した「校区接続カリキュラム」の作成を支援する。
- ・幼保こ小と行政の共通理解を図るため、研修会を開催し理解の浸透を図る。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・架け橋期のコーディネーターの配置（1人）
- ・幼保こ小架け橋プログラム策定委員会の開催（年2回）
- ・幼保こ小連携推進事業（かけはし）担当者連絡会の開催（年3回）※研修会を含む。

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保こ小連携推進事業（かけはし）担当者連絡会の様子＞

1回目は、藤枝市内の幼保こ小の職員が一堂に会し、お互いを知ることから始めた。中学校区単位で「願うこどもの姿」を確認した。2回目は、「学びのつながり」についてウェビングシートを使いながら語り合い、3回目は、次年度に向けて具体的な取組を話し合った。こどもをまんやかにした話し合いを進める中で、お互いが感じていた垣根が低くなっていった。



＜交流活動の様子＞

小学校が近隣園の年長児を招いて交流活動を行った。年長児にとって、「学校って楽しそうだな。」と期待感を膨らめたり、教室に入ったりトイレを使ってみたりすることで不安解消につながった。1年生にとっては、自分の成長を自覚し、進級する気持ちを高めたり、相手意識を育んだりする活動となった。このような交流をきっかけとして、園同士の横の交流も徐々に行われている。



＜幼保こ小中合同研修会の様子＞

園の保育士等が小中合同研修に参加し、授業の参観を行い、授業をもとにしたグループ協議が行われた。その後の全体講話では、藤枝市の教育理念である「授業で人を育てる」を実践するために大切な「5つの考え方」は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」とつなげて考えることができると学んだ。市内の各中学校区で同様の取組が広がっており、幼保こ小中の職員が互いを理解し合う一助となっている。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：三重県四日市市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

幼保小接続における「こども理解」の深化と「学びの連続性」を重視し、架け橋期のコーディネーター配置による伴走支援に注力している。令和7年度は、「四日市市架け橋期プログラム共通マップ」を作成し、実践段階への移行期と捉え、各小学校区における実態把握と相互理解をさらに推進。具体的には、カリキュラム開発会議の設置による指針の明確化、アウトリーチ型支援による各施設の質向上、研修・フォーラムを通じた全市的な普及・啓発を一体的に展開し、持続可能な幼児教育推進体制を構築していく。

【令和7年度における主な取組内容】

- ① 架け橋期のカリキュラム開発会議等の設置
(四日市市就学前教育・保育カリキュラム実践版の浸透と、共通マップの具体化)
- ② 架け橋期のコーディネーター等の配置・派遣
(アウトリーチ型訪問、個別相談、おしゃべり会の実施)
- ③ 幼保小の架け橋プログラムの普及・啓発等
(研修会、公開保育、フォーラムの開催、校区単位の交流促進)

【取組内容の具体的な事例】

＜カリキュラム開発会議の充実と「学びの連続性」の可視化＞

本会議では、三重大学・富田昌平教授の助言のもと、単なる形式的な書類作成に留まらず、幼保小の職員が「こどもの姿」を基点に対話する文化の醸成に注力している。

「四日市市架け橋期プログラム共通マップ」を作成し、「地域の実態に応じた接続」を推進していくことを討議した。



また、「四日市市就学前教育・保育カリキュラム実践版」の作成においては、学校教職員が「到達目標」という評価視点だけでなく、就学前のこどもの「自発的な意欲」や「試行錯誤のプロセス」を理解するためのツールとしていくことを再確認した。また、各校園での実践が、今まで発刊してきた「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」その「活用版」そして「実践版」へとつながり、それぞれの施設での取組の振り返りの一助としていくことの共通理解も深めた。



まずは「出会い」を大切に、園長・校長等の代表者間、そしてクラス担任間での交流を重ねることで、共通マップを各校区の具体的な活動へと落とし込むことを来年度以降の取組み課題とし、小学校入学後にこどもたちが「園での経験が学びにつながっている」と実感できる、自律的な「接続期カリキュラム」の運用体制を整えていく。

＜架け橋期コーディネーターによる伴走型支援と保育者の専門性の向上＞

架け橋期コーディネーターによる支援は、現場の課題解決だけでなく、保育者一人ひとりの専門性を肯定し、職務への「モチベーションアップ」を促す循環の核として機能した。具体的には、計画訪問及び要請訪問において、保育者と共にこどもの姿を深く見つめる「伴走型支援」を展開。保育者が日々の実践の中で見過ごしがちな「学びの芽生え」を共に言語化し、小学校以降の学習の土台となる「3つの資質・能力」が豊かに息づいていることを具体的に可視化・共有できるよう支援した。架け橋期コーディネーターが第三者の視点から、日々の保育の中に潜む「高度な専門性」を価値付けることで、保育者が自らの実践に自信と誇りを持ち、さらなる質の向上へ向かう意欲を高めた。

また、全8回開催された「おしゃべり会」は、若手からベテランまでが気軽に立ち寄り、語り合うリフレッシュの場となった。日々の葛藤を分かち合い、保育の楽しさを再確認するこの場は、精神的な安心を支えるだけでなく、「明日からまたこどもと同じ目線で楽しもう」という挑戦へのエネルギーを生み出す機会となった。



そして、学校教職員向けに発行する「架け橋期通信」は、幼児期の遊びを通した学びが、非認知能力や語彙力の基礎を形成していることを論理的に解説する「翻訳者」の役割を目指し、架け橋プログラムが持続可能な取組につながるよう機能している。

＜普及・啓発と接続の最適解の追求（公開保育・フォーラム・交流活動）＞

公開保育（研究）・実践検討会では、学校教職員の参加が大幅に増加し、具体的な環境構成への気付きが生まれていた。参加した学校教職員からは、「積み木遊びが図形理解に繋がっていることを実感した」「小学校でも『架け橋ルーム』のような、こどもが安心して挑戦できる環境を整えたい」といった前向きな手応えが得られた。保育者とこどもが共に遊びを創る「共主体」の考え方が、小学校教育における「主体的・対話的で深い学び」への接続に不可欠であるという共通認識へと向かい始めた。



また、設置形態を問わず全小学校区でこども同士・職員間の交流が始動。代表者や担任が顔を合わせる「対話」を起点に、園の遊びと小学校の学びをつなぐ交流が始まった。



2025年12月の「教育・保育フォーラム」では、「こどものワクワクを繋ぐ」という方向性を探ったフォーラムでの共鳴を力に、今ここからこどもをまんやかにした保育者・学校教職員が、実態に即した持続可能な接続体制を構築していくこととした。

令和 7 年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：三重県津市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

津市架け橋プログラムは令和 4 年度から取組を始め、教育・福祉の部局が垣根を越えて、取組の方向性やカリキュラムの策定に係る話し合いを行う在り方検討会、その後、4 つのモデル小学校区において取組の実施と検証を行いました。令和 6 年度には津市内の公私立すべての幼児教育施設及び小学校が小学校区ごとに子どもの育ちや学び等の姿をもとに語り合いを重ね、各小学校区の架け橋期カリキュラムを作成しました。令和 7 年度も語り合いを通じた互いの保育・教育を理解し合うことを大切に持続可能な取組として津市架け橋プログラムを推進しています。

【令和 7 年度における主な取組内容】

各小学校区での子どもの姿を中心にした語り合いの充実、架け橋サポーターや幼児教育アドバイザー及び指導主事による各小学校区の取組へのサポート、接続を意識した 1 年生生活科実践のための研修会（講師による講演）の実施、架け橋コーディネーター研修会の実施、取組の先進地への視察、「かけはし通信」による取組の好事例等の発信、他

【取組内容の具体的な事例】

＜各小学校区での子どもの姿を中心にした語り合いの様子＞

令和 6 年度から継続して、津市内の全小学校区で、園での遊びの姿や小学校 1 年生の生活科での様子をエピソードとして写真や動画等で持ち寄り、10 の姿をもとに子どもの学びや育ちを語り合いました。これらの語り合いは各小学校区において年間数回継続して行われ、語り合いから見られた接続期の子どもたちに育まれた資質・能力や、めざす子ども像等を各小学校区の令和 7 年度架け橋期カリキュラムとして更新をしました。A 小学校区では、園の様子を小中学校の教職員が参観し、参観してみつけた 5 歳児の遊びの中で学ぶ姿をもとに語り合いました。B 小学校区では小学校教頭から「10 の姿」の解説や架け橋プログラムの意義等についての説明がありました。



各小学校区においては施設間の信頼関係が構築されるとともに、互いの教育を知り自身の保育・教育の充実や改善を図ろうとする機運が醸成されました。

＜津市架け橋プログラムに係る研修会の様子＞

7 月には愛知教育大学から野田 敦敬 学長を招聘し、幼児教育から小学校教育へ子ど

もの学びをつなぐ生活科をテーマに、9月には鳴門教育大学大学院から佐々木 晃 教授を招聘し、幼児教育と小学校教育の接続の推進についてをテーマに研修会を実施しました。

両会共に、各園・校の架け橋コーディネーター（幼小接続担当者）を中心として100名を超える参加者がありました。講演から、幼児教育は具体的な体験の中で学んでいく教育であり、生活科は幼児教育を小学校につなぐ教科であることから、「子ども主体」「体験重視」を生活科に引き継いでいくことの重要性を確認しました。

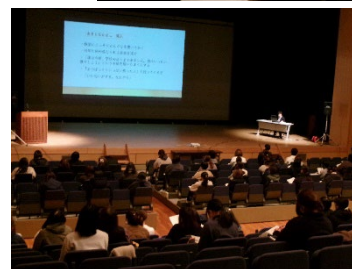
その他にも、9月には三重大学教育学部講師 水津幸恵先生によるウェブ図を活用した子ども理解について、1月には本市の元小学校校長であり元津市架け橋サポーターの小島博之先生による幼児期の子どものおそびの姿から小学校・中学校までつながる学びの見とりについて、2月には三重大学教育学部教授 岡野昇先生による幼児期から学びのつながりを意識した運動の楽しさを実感できる実技演習について、幼児教育を中心とした参加希望者にご教授いただきました。

＜架け橋コーディネーター研修会の様子＞

各園・校及び校区での取組の推進を図るため、年間2回、各園・校の架け橋コーディネーターを対象に研修会を実施しました。コーディネーター研修会は参加者のグループワークを大切にしており、その様子を含めた本市の取組や今後の方向性等について、三重大学教育学部の富田教授から毎回、指導・助言をいただいています。6月に実施の第1回コーディネーター研修会では、令和6年度の取組と、作成した各校区のカリキュラムについての交流を行いました。1月に実施の第2回コーディネーター研修会では「子ども主体・体験重視」の生活科への転換に向け、子どもの「わくわくする」「やってみたいな」という思いを出発点にした単元の導入をウェブ図を活用し、園・小双方の立場からグループワークにおいて考え、生活科をデザインしました。

架け橋プログラムと授業改善はセットであり、「生活科」は架け橋プログラムのカギとなる教科として、これまでのワークの中で語り合ってきた子どもの見とりを生活科を中心とした授業改善に向けて引き継いでいくこと、子どもの声や姿を踏まえた学びの環境づくり等についての重要性を確認することができました。

現在、本市では多くの幼児教育施設で実践されている「子ども主体」の学びが、園と小をつなぐ教科である1年生の生活科授業の中で引き継がれているとは言えない状況が



ありますので、架け橋プログラムで大切にしている語り合いを継続し充実させていく中で、生活科を中心とした小学校での授業改善につなげていく必要性を感じています。

＜先進地への視察について＞

津市立幼稚園教職員研修事業として、令和7年10月27日には東京都江戸川区にある東一の江こども園において、幼稚園教諭2名が視察研修を行いました。遊びの中の育ちと学びについて環境面や子どもの思いと教師の意図に基づいて考察しました。同年11月20日には「学びをつなぐ希望のバトンフォーラム 2025」（福井市にて開催）に幼稚園教諭2名が参加し、園・校種を越えた接続のための語り合いについて学びました。令和8年1月24日には、大阪教育大学附属幼稚園研究発表会に事務局職員2名が参加し、主体的に遊ぶ子どもの様子を参観し、幼児教育が「子ども主体・体験重視」であることを確認するとともに、そのことを小学校生活科に引き継いでいくことの重要性について学びました。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：京都府舞鶴市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

5歳児と1年生と一緒に活動をする架け橋活動や保育者・教師向けの合同研修を通じて、こどもだけでなく、保育者・教師も互恵性、連続性、相互理解を図ってきた。各園校の取組には、保幼小架け橋コーディネーターが訪問し、サポートしている。また、カリキュラムについても、モデル園校と架け橋コーディネーターや市教育委員会指導主事が対話をしながら作成に向け取り組んでいる。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・保幼小架け橋プログラム検討会議の設置、開催
- ・モデル園校による保幼小架け橋期のカリキュラム（案）の作成
- ・5歳児と1年生の架け橋活動の充実
- ・架け橋活動や架け橋研修を通じた保育者・教師の相互理解
- ・保幼小架け橋コーディネーターによる訪問サポート

【取組内容の具体的な事例】

【モデル園校による保幼小架け橋期のカリキュラム（案）の作成】

モデル園校の管理職や主任、5歳児と1年生担任が複数回集まり、「架け橋期にめざすこども像」やそれをもとにした「期待するこどもの姿」、その姿を引き出すプロセスを重視した「遊びや学習活動」、そして、「保育者・教師の関わり」などの共通項目をもとに、付箋を使ったワークを通して具体的な内容について協議を行った。対話を通じて多様な考えに触れるよさや大切にしたい共通の願いを再確認したり、互いの専門性を発揮しながら学び合う楽しさを感じたりする機会になり、相互理解が深まってきている。カリキュラムを作成することが目的ではなく、作成を通じて、互いの専門性に学ぶこと、相互理解と互恵性が重要であることを再確認し、互いの保育・教育への充実へとつながってきている。モデル園校の架け橋活動の様子（研修ニュースレターより）



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：京都府京都市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

京都市では、令和7年度より全市の小学校区で幼保小の架け橋プログラムを推進している。架け橋コーディネーターの派遣や研修等を通じて園と学校の連携を支援するとともに実践推進校として11校を指定し、連携・接続の取組を進めている。一方で、学校園間で取組の進捗に差が見られ、より一層の連携強化と取組を広げていくことが課題である。

【令和7年度における主な取組内容】

架け橋会議の開催、実践推進事業の実施、研修等の実施

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋会議の様子＞

・有識者や関係団体等が参画する京都市架け橋会議を年2回実施。全市的な小学校教員および就学前施設保育者への研修の実施方法・内容や、全小学校区で架け橋プログラムを推進するための具体的な支援策について検討。



＜実践推進校対象研修会の様子＞

・実践推進校の具体的な実践事例を共有するとともに、スーパーバイザーである京都教育大学・古賀松香教授の講演を通して、架け橋プログラムの意義や効果への理解を深め、自校園の教育・保育の質的向上を図った。参加者が「私たちの架け橋を進めよう」をテーマに意見交換を行うなど、各校園での実践に生かす視点を獲得する機会となった。



＜架け橋コーディネーター派遣の様子＞

・架け橋コーディネーターが小学校と就学前施設を訪問し、保育参観や授業参観を通して、双方の教育・保育のつながりについて助言を行った。参観後には、子どもの姿や指導の意図について協議を行い、幼児教育と小学校教育の視点を共有する機会となった。



こうした派遣により、園・学校双方の理解が深まり、各校区での架け橋プログラム推進に向けた具体的な改善点が明確になった。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：京都府宇治市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

- ・小学校区を単位とした架け橋ブロックの編成。
- ・乳幼児教育・保育支援センター職員である幼児教育アドバイザーによる園訪問の実施。
- ・乳幼児教育・保育協働研修の実施（令和7年度：22回）

【令和7年度における主な取組内容】

- ・乳幼児教育・保育支援センターのコーディネートにより、市内全ての架け橋ブロックでブロック会議を開催し、小学校と就学前施設との交流事業の実施につなげた。
- ・学識経験者、就学前施設職員、小学校教職員及び療育施設職員による宇治市乳幼児教育・保育推進協議会及び同協議会専門部会を開催し、保幼小連携推進策について検討・意見交換を行った。

【取組内容の具体的な事例】

＜交流事業（第4ブロック：北小倉小学校・小倉幼稚園・こひつじこども園）＞

R7.11.12 小学校にて運動遊び交流を実施（62人参加）。

運動会演技の発表、チームリレー、玉入れ等を行った。

一緒に運動遊びを楽しむ中で、互いに親しみを持つことがねらい。1年生の先生が進行していたら、就学前施設の先生が音響を担当する等、連携がしっかりとれ、良好な関係が築かれていた。顔の見える関係構築の大切さを感じた。

＜宇治市乳幼児教育・保育推進協議会保幼小連携専門部会の様子＞

保幼小連携専門部会は全3回実施。

保幼小連携の推進策等について検討・意見交換を行い、乳幼児教育・保育支援センターによる「架け橋期カリキュラム作成の手引き」や「保幼小連携のチラシの作成」につながった。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：大阪府堺市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

堺市「架け橋期のカリキュラム」開発会議（以下、開発会議）を開催し、堺市共通版「架け橋期のカリキュラム」を策定。全小学校（92校）と連携を希望する就学前施設（158施設）とで「架け橋連携グループ」を組み、相互参観や合同研修等の取組を推進。架け橋コーディネーターを学校園に派遣し、研修や助言を行い、取組の充実を図る。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・開発会議を年7回開催し、堺市共通版「架け橋期のカリキュラム」を策定。
- ・幼保小合同研修を年4回開催するとともに、9小学校区を幼保小接続支援事業の指定校区とし、相互参観や合同研修等へ専門家や架け橋コーディネーターを派遣。
- ・架け橋連携グループ（全校区）で相互参観等の取組を実施。

【取組内容の具体的な事例】

＜堺市「架け橋期のカリキュラム」開発会議の様子＞

専門家や公民施設の各代表等で構成する開発会議を開催し、堺市共通版「架け橋期のカリキュラム」を策定。架け橋期に育みたい資質・能力を明確にするとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼保小のつながりがわかるようカリキュラムや、付属資料等を作成した。



＜幼保小合同研修の様子＞

専門家による講演や令和6年度の幼保小接続支援事業の指定校による取組発表、事務局からの説明等により、堺市の架け橋プログラムへの理解促進を図った。また、架け橋連携グループに分かれ、取組についての情報交換や、1年生「国語科」の授業づくり等を行い、相互理解を深めながら学びのつながりを捉えることができた。



＜幼保小接続支援事業の指定校の取組の様子＞

専門家等を招いた合同研修や、幼保小で国語や算数の指導案と一緒に検討した授業実践等、校区の実態に応じた取組を実施。その他、架け橋コーディネーターが指定校を訪問し、取組状況の把握や、各校区の課題や困り事に対する助言等を行った。また、指定校の取組を中心に、好事例等を「さかいつこかけはし通信」で学校園に発信し、円滑な取組の推進に向けた啓発を行った。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：大阪府大阪市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

市内には、多くの就学前施設と小学校があり、連携・接続の取組の進捗状況に大きな差があるのが現状である。全体的に子どもの交流の機会は増えているが、架け橋プログラムの取組の浸透については推進中である。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 保幼こ小連携・接続推進事業第4期として、小学校と近隣就学前施設2～3園所で構成された2ブロックにおいて、実践研究に取り組んだ。研究会には、指導講師として大学教授を招聘し、助言を受けた。2年間の研究実績について、全市に対して研究報告会を行い、「取組のまとめ」を作成した。
- ・ 第1期から4期の研究成果を生かして「架け橋期のカリキュラム実践ハンドブック」を作成した。
- ・ 大学教授等の有識者を招聘し、センター主催の研修会を2回、小学校教育研究会との共催での研修会を1回開催した。

【取組内容の具体的な事例】

＜全学年が5歳児と交流した様子＞

1年生との学校見学、2年生との昔遊びや園訪問、3年生との音楽交流、4、5年生とのプール交流や凧あげ、6年生との避難訓練などの交流が実施された。全学年が取り組むことで、多くの交流の機会がもてた。学校行事のフェスティバルに、近隣の保育園と幼稚園の5歳児が参加し、小学生が考えたゲームや遊びを楽しんだ。小学生は、幼児が遊びやすいように場を工夫したり、丁寧に説明をしたりした。当日の関わりだけでなく、その日を迎えるまでに5歳児が楽しいと思えるように考え、準備をしたことは、学び合うことにつながったという成果も取り上げられた。



＜幼保交流会の様子＞

保育園児が幼稚園の園庭でどろんこ遊びをしたり、幼稚園児が保育園の遊具で遊んだりした。一緒に過ごす機会が増えると、知っている友達ができ、交流の日を楽しみにするようになった。運動会の頃には、地域の公園で一緒にリレー遊びをした。チームで作戦を話し合うと、自分の考えを伝えるとともに、相手の考えを受け入れるようなやりとりも見られた。地域に同じ年齢の友達がいることを知り、安心感につながっていた。



＜合同学習会の様子＞

小学校から全学年の教員が参加し、保育園と幼稚園の保育者も混じってグループ討議を行う学習会を実施した。幼保交流会でのどろんこ遊びの様子を撮影した映像を見て、何が育っているかを見取り、意見交流を行った。講師は、この遊びの中に、小学校の教科につながる学びが多く含まれることを示した。



＜次年度以降の取組＞

令和7年度に、8年間の実践研究を生かして教育委員会と当センターで「架け橋期のカリキュラム実践ハンドブック」を作成した。次年度に、全市の小学校と就学前施設に配付し、教育委員会と総合教育センターと共に周知し、架け橋プログラムを推進する予定である。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：大阪府八尾市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

『幼保こ小合同研修会』の事務局として関係各課と連携・運営協力体制を整え、推進会議を行った。異校種間の授業・保育見学、意見交流や就学前同士の横のつながりワーク、仮の架け橋期カリキュラム作成など、参加者が子どもの育ちと学びを語り合え、共通点や違いを知り、繋がる必要性に気づけるように様式や進め方を見直した。

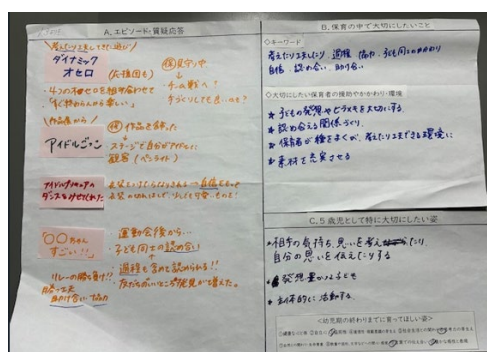
【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育研修、幼保こ小合同研修会の開催
- ・ 特別支援教育・保育巡回指導
- ・ 園内研修等への講師派遣（園内研、事例研、学習会、保育力アッププロジェクト等）
- ・ 幼児教育研究（保育公開、研究討議、研究報告会、研究冊子の作成等）
- ・ 『様々な遊びの中で健やかに育つ子ども』の実践フォト&事例の募集

【取組内容の具体的な事例】

＜第3回（1部）・幼保こ小合同研修会の様子＞

就学前施設職員のみで『5歳児の育ちと保育実践（遊び）の中で大切にしていること（したいこと）』をテーマに意見交流した。「きいてきいてエピソード」として、子どものかわいい姿や面白い遊びなど、自分の保育を語りやすくした。園によってカリキュラムや方針など異なることも多くあるが、子どもの育ちや学びを通して、大切にしたい視点を楽しそうに語り合え、共感できた。また、就学前施設の職員同士だからこそ、



出る質問だったり盛り上がったたりすることができ、横のつながりを深める一歩となった。

＜第3回（2部）・幼保こ小合同研修会の様子＞

よりよい教育・保育実践につなげるため、グループ毎に仮の架け橋期カリキュラムを3年間で作成することにした。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は共通項目として入れる、小学校の生活科に特化するのではなく、関連する教科内容も記載するなど、参加者が意見を出しやすく今後活用したくなる様式の工夫をした。令和7年度は、歩み寄りやすく、考えやすい様式①（めざすこども像とグループの方向性）と様式②—1（小学校の1学期）を考え合った。八尾市の課題を元に研修内容を見直したことで、参加者が楽しく知り、気づくことができた。



「幼児教育で培った経験や興味・関心を小学校教育ですべての児童に学びとして指導するために、色々な視点から授業研究をしていきたい」「子どもからの発信やたわいもない言葉を聞き逃さずに拾い上げて、クラスとして考えてみたり、広げていけるようにし
らりして、いろんな経験を重ねて就学に迎えるようにしていきたい」など参加者の感想からも、授業や保育の実践につなげようとする機会になったことが分かった。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：大阪府門真市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

門真市幼児教育振興検討委員会を立ち上げ、門真市幼保小の架け橋期カリキュラムを策定。小中一貫教育の前段階として位置づけ、中学校を含めた幼保小中の連携・接続を意識している。基本版には緩やかな育ちの連続性のイメージを共有するために、年少・年中児、小学校2年生についても記載している。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・門真市幼児教育振興検討委員会 3回
- ・幼保小中合同研修会 1回

【取組内容の具体的な事例】

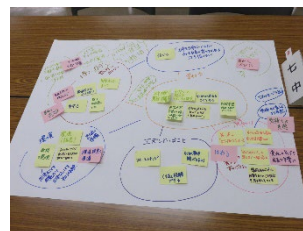
＜門真市幼児教育振興検討委員会の様子＞

委員会を合計3回開催し、カリキュラムの内容について、それぞれの専門的な見地から熱心にご議論をいただき、そこで出された意見を踏まえたカリキュラムを作成した。



＜幼保小中合同研修会の様子＞

市内就学前教育・保育施設の職員及び学校関係者を対象に「架け橋期カリキュラム」についての講演を開催したのち、「子どもに学びを委ねる」をテーマとして校区ごとに意見交換を行い、教育・保育現場における主体性の育成と規律の両立、また幼保小中の連携の重要性を再確認する機会となった。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：大阪府枚方市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

令和5年度から開催している、年3回の幼保こ小連携担当者連絡会及び年1回の幼保こ小中管理職研修を令和7年度も実施し、継続的に取り組むことができています。
今年度より、架け橋コーディネーターが配置されたことで、ニーズに応じた校区支援や好事例の発信を昨年度以上に行うことができた。

【令和7年度における主な取組内容】

架け橋期のコーディネーターの設置、架け橋期のコーディネーターや架け橋事務局によるスポット支援、架け橋通信の発行、幼児教育アドバイザーの連絡会を開催、各校区の架け橋コンパスを年に3回以上見直し改善したり活用したりできるよう担当者連絡会を開催、合同研修の実施、幼稚園・保育所園の見学会を、年間を通して実施。（年間合計56回公開保育を行い、延べ404人の参加があった）

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋期のコーディネーターの様子＞

- ・ 公立幼稚園、公立保育所の見学会に参加し、参加者との振り返り協議に参加。公開保育での子どもの様子から幼児教育の価値づけをし、架け橋の意義を伝えと共に、好事例を通信にまとめて配信。



＜幼児教育アドバイザー連絡会の様子＞

- ・ 大阪府の認定を受けた、公立幼稚園・保育所の幼児教育アドバイザーと、私立就学前施設の幼児教育アドバイザーの希望者で、幼児教育アドバイザー連絡会を開催。東西南北の4エリアにわかれて研修企画等を行い、横のつながりを強化。



＜継続的に取り組んでいる幼保こ小連携担当者連絡会の様子＞

- ・ 年3回の幼保こ小連携担当者連絡会を実施することで、各校区年に3回以上架け橋コンパスの検証や、交流活動についての話し合いの時間が確保され、架け橋事務局が現状を把握し、必要に応じて支援することで、ボトムアップが図られている。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：大阪府柏原市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

福祉部局の担当者（教育委員会と併任）と指導主事が、架け橋期のコーディネーターとして、幼小接続・連携のための体制を整備。市内就学前施設同士が要領・指針に基づいた保育の理解と横のつながりの強化のため「柏原市就学前教育・保育カリキュラム」の改訂に取り組み、小学校教育の基盤であることの意識づけを図った。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・架け橋期カリキュラム検討委員会 3回/年
- ・幼小接続合同研修会 1回
- ・幼小相互見学会(大人同士の交流)、わくわくスタート(子ども同士の交流)全域で実施
- ・(就学前施設)カリキュラム研究会 15/回

【取組内容の具体的な事例】

※ 【令和7年度における主な取組内容】のうち、具体的な事例について写真やコメント等により紹介願います。

＜公開授業、意見交流の様子＞

1学期、市内全域で公開授業・保育と事後の意見交流を実施。



＜なわとび交流の様子＞

モデル地区での子ども同士の交流の内容について
幼小が事前に打ち合わせを行い実施した。



＜就学前カリキュラム研究会の様子＞

幼児教育の施設の横のつながりの強化のため
公私立すべての園が参加し、
カリキュラムの改訂を行った。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：兵庫県西脇市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

架け橋期のコーディネーターを幼児教育センターに4名（幼児教育アドバイザーも兼ねる）、学校教育課に3名配置している。カリキュラム開発会議では、カリキュラムの検証・改善についての協議を進めている。園小職員による相互参観や、合同研修の実施、園小交流会等による交流を深めながら、実際の子どもの姿を介しての、教育・保育内容の相互理解を進めているところである。

【令和7年度における主な取組内容】

- (1)認定こども園・小学校接続カリキュラム研究委員会（カリキュラム開発会議）の実施
- (2)相互参観、園小合同研修会等による接続期の教育の質的向上
- (3)公開保育・公開授業への参加
- (4)円滑な接続を推進するための就学前教育・保育の質的向上
- (5)特別な配慮を必要とする子どもと家庭のための園小接続

【取組内容の具体的な事例】

＜(1)認定こども園・小学校接続カリキュラム研究委員会の様子＞

年3回開催。令和6年度よりカリキュラムを運用しており、検証・改善のための協議を進めている。運用時を動画撮影したものを用意し、実際の様子を可視化することで、子どもたちの姿を具体的に話し合うことができるよう工夫した。その中で、それぞれのカリキュラム運用時の事例作成・収集も行った。



＜(2)相互参観、園小合同研修会等による接続期の教育の質的向上の取組の様子＞

小学校は5月、こども園は7、8月と相互参観を実施。参観前に「参観シート」を配布し、園小職員が視点や観点をもちながら参観できるようにした。また事後に参観シートを分かりやすくまとめ、こども園・小学校・中学校の教職員に配信することで、理解の促進につながった。

また合同研修では様々なテーマを取り上げ、1年生や5歳児担任に限らず、全職員を対象とし、学びの連続性と園小接続の重要性について理解が進むようにした。



【園での運動遊びと小学校での体育とのつながりについて】

＜(3)公開保育・公開授業の様子＞

公開保育に1年生を招待し、5歳児と交流した。事前交流を行い、5歳児が困っていることや実現したいことを1年生に相談しアイデアをもらった。当日、実現できた遊び

を共に楽しむことで互いが満足感を味わうことができ、互恵性のある交流となった。

また小学校の公開授業にも園の職員が参加した。実際の授業の様子を参観することで子どもの育ちを感じ、つながりをより意識できるようになった。園での取組に生かすことができる場面もあった。



【公開保育の日に5歳児が1年生を招待して交流】

＜(4)就学前教育・保育の質的向上の取組の様子＞

幼児教育等の専門分野についての有識者を招き、課題別研修会を実施。キャリア別や担当者別等、それぞれの課題に応じた研修会を実施することにより、教職員の質向上を図った。

また就学前教育・保育の質の向上推進委員による年2回の視察訪問を通じて、保育の質の向上はもとより、接続期の教育・保育についての理解推進・充実も図ることができた。

＜(5)特別な配慮を必要とする子どもと家庭のための園小接続の取組の様子＞

子どもや保護者が安心して入学することができるようにするため、こども園の職員や保護者からの子どもの就学先についての相談に学校教育課のコーディネーターが対応した。また特別支援学習会においてコーディネーターが支援学級や通級指導等の実際について具体的に話をする機会をもち、こども園の職員の理解推進を図った。



【学校教育課にコーディネーターによる、就学に向けての研修会】

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：兵庫県伊丹市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

架け橋期のコーディネーターを増員し、就学前施設訪問、幼小接続をテーマにした連続講座や幼小接続シンポジウムの実施、架け橋期の教育連絡協議会地域部会等を通して幼保小の架け橋プログラムの普及・啓発に取り組んだ。学校教育課と連携し、市の架け橋期のモデルカリキュラム(1年生版)の策定を行った。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 架け橋期のコーディネーターによる就学前施設訪問事業
- ・ 伊丹市 架け橋期の教育連絡協議会 地域部会の立ち上げ
- ・ 伊丹市 幼小接続シンポジウムの開催
- ・ 伊丹市 架け橋期のカリキュラム(1年生版)の策定

【取組内容の具体的な事例】

＜伊丹市 架け橋期の教育連絡協議会 地域部会の様子＞

今年度より、市内7か所の地域部会拠点園に近隣の小学校、公私立幼児教育施設が集い架け橋期のカリキュラムをもとにした保育・授業の実践交流を図るとともに、児童等の情報共有を行うことを目的として、「伊丹市架け橋期の教育連絡協議会 地域部会」を年度間各2回実施した。

会では架け橋期の子どもたちの様子や入学前の経験等の情報共有並びに、授業や保育の工夫等について協議を行い、学びの連続性の相互理解を図った。幼児教育センター架け橋期のコーディネーターも参加し、各地域の実態把握や指導助言を行った。



＜伊丹市 幼小接続シンポジウムの様子＞

「カリキュラムでつなぐ架け橋期の学び」をテーマに泉大津市立楠小学校教頭 竹野乃利子氏を講師に実施し、市内就学前施設と小学校から110名の参加があった。

講師による1年生の模擬授業を交えた講演を通して、遊びの要素の中に、教科の学びの評価につながる意識をもって仕組むことの大切さや、子どもは安心感の中で自立し、学び、成長していくということを学ぶことができた。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：兵庫県宍粟市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

宍粟市では、小学校以降の教育への滑らかな接続を図るパートナーシップ事業等の推進を通して、中学校区単位で学校園所が連携し、子どもと児童の交流及び教職員間の交流活動の充実に取り組んでいる。また、市内園所が同じ質の保育を保障できるよう、市内の保育者が参加可能な研修や公民合同の交流活動、合同会議、幼児教育アドバイザーによる研修会等の実施に努めている。

【令和7年度における主な取組内容】

- 1 中学校パートナーシップ事業における幼保こ小中の接続及び連携
 - ・宍粟市学校園所合同会議の開催
- 2 架け橋プログラムの検討、見直し
 - ・中学校区単位で実態に合わせて開催
- 3 研修会の計画・実施
 - ・総合教育センター事業における研修会の実施（年7回）
- 4 特別な支援を必要とする児に関する教育・就学支援
 - ・特別支援教育研修会（年3回）・教育支援委員会の開催（年5回）
 - ・特別支援教育・保育会議の開催（年1回他、必要に応じて開催）
- 5 園所への定期訪問、要請訪問
 - ・幼児教育アドバイザーによる研修会の実施（年2回）・園所への訪問（年10回）

【取組内容の具体的な事例】

＜3 研修会の計画・実施＞

本市の幼児教育の充実を図るため、総合教育センター事業において学識経験者を招き、市内保育者を対象に国の施策や保育者に求められる役割について講義を受けた。施策の解説を聞いて国の動向が分かり、保育者の役割の重要性について学ぶことができた。



＜5 園所への定期訪問、要請訪問＞

幼児教育アドバイザーによる研修会を実施し、今年度は経過記録や幼児生活調査票の内容を整理し、園長、副園長、主任等と共通理解を図った。また、市内園所で開催する公開保育や研修会に幼児教育アドバイザーも参加し、保育者と一緒に研修を行った。

民間園においては要請に応じて園を訪問し、知見を生かして保育指導や助言等を行った。成果として、経過記録や生活調査票の内容が整理されたこと、民間園においても気軽に保育相談ができる関係作りを築けていることである。今後も信頼関係を保ち、継続的に取り組んでいきたい。

自治体名：兵庫県三木市

就学前施設と小学校の職員による合同研修や相互参観を実施しながら、相互理解を深めるとともに、令和7年度より「三木市架幼保小架け橋期のカリキュラム検討会議」を年4～5回開催しながら、令和8年度「三木市幼保小架け橋期のカリキュラム」策定完成に向け、検討を行っている。

- ・就学前施設と小学校の職員による合同研修 年2回実施
- ・近隣の交流校園所ごとに、5歳児と1年生の授業・保育について相互参観を実施
- ・検討会議（全体会1回、検討委員会4回）を開催し、「三木市幼保小架け橋期のカリキュラム」の策定に向け、めざす子ども像や育みたい力等の共有を図りながら、カリキュラムの土台作りを行った。

[illegible]

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：兵庫県西宮市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

本市では、平成16年から幼・保・認・小連携事業「つながり」を開始し、平成27年には『みやっこ「つながり」カリキュラム』を作成しており、現在まで公私立や校種種を超えた交流が続けているが、カリキュラムの活用や実践の積み上げに課題を抱えている。

令和7年度からの架け橋プログラムでは、新設された幼児教育・保育センターが中心となり、カリキュラム改訂及び架け橋期コーディネーター・幼児教育アドバイザー派遣などの取組を進めている。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・みやっこ『つながり』カリキュラム検討委員会を設置し、改訂に向けた検討を開始
- ・西宮市で幼児教育に携わる教職員が一堂に会する研修会を実施
- ・西宮市版系統表を作成し、遊びを通した学びと教科の学びの連続性を整理
- ・幼児教育施設と小学校の連携・調整等の役割を担う架け橋期コーディネーターを派遣
- ・指導助言を通じた質向上を図るため、専門知識を有する幼児教育アドバイザーを派遣
- ・各種研修や研究活動を通じて質向上を図るとともに専門性を有する人材を育成

【取組内容の具体的な事例】

＜みやっこ『つながり』カリキュラム検討委員会の様子＞
各校園所を代表する検討委員が、現場で活かせる接続期カリキュラム及び実践事例について検討を行ったほか、現状と課題の共有、今後の幼保小連携について意見交換を行った。



＜幼児教育アドバイザー派遣の様子＞

公私幼保25施設に対して、幼児教育アドバイザーを44回派遣した。支援内容としては、①特別支援教育に係る児童観察・指導助言を希望する施設が最多であり、次いで多いのが②乳幼児の環境構成、③人材育成であった。



＜西宮市版系統表作成の様子＞

幼児期の遊びを通した学びと児童期の教科の学びの連続性を分かりやすく示し、就学前後の教職員の共通理解を図るため、幼児教育・保育センターと教育委員会が連携し、公立の幼稚園と小学校の教科研究グループが中心となり、3科目（国語、算数、理科）の系統表を完成させた。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：岡山県高梁市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

※本市内小学校・園で園小接続の取組を進めてきており、概ね園小の交流等の取組は定着してきている。しかし、その内容はイベント的で子どもの育ちや学びの接続には結びつきにくく、5歳児と1年生担任のみの取組となっており、校園全体のものとは言えない現状である。

【令和7年度における主な取組内容】

- ① 架け橋期のカリキュラムの策定・実施・改善に向けた取組
- ② 持続可能な実施体制の構築に向けた組織的な人材育成
- ③ 架け橋期コーディネーターの活動の実施

【取組内容の具体的な事例】

- ① 架け橋期のカリキュラムの策定・実施・改善に向けた取組

＜第1回高梁市架け橋プログラム研修会の実施＞

- ・令和7年6月10日開催
- ・市内全小学校、公立幼稚園・こども園・保育園・私立こども園・保育園の校園長及び接続担当者が参加

○岡山県幼児教育センター岡堂典以史架け橋期

コーディネーターより架け橋期のカリキュラム開発

と推進上のポイントの講話を聴いた後、各小学校ブロックに分かれ、小学校ブロックの架け橋期プログラムの策定手順について協議した。

- ここで協議した手順に従って、年度内に各小学校ブロックにおいて校・園の架け橋期のカリキュラムを策定した。



- ② 持続可能な実施体制の構築に向けた組織的な人材育成

＜高梁市就学前教育保育課程研究発表会の開催＞

- ・令和7年10月29日開催

○研究指定園（川上こども園）、協力校（川上小学校）

による『自己肯定感の育成』の取組について、市内小学校、園の校長及び園長並びに接続担当者が、当日の公開交流及び実践について、自校園の取組を基に意見交換を行った。

- 研究園及び協力校の職員が、『自己肯定感の育成』という同じ研究テーマに向かって連携し合うことで、架け橋期の重要性を認識するとともに、協働の必要性も実感



することができた。

さらに、園・小職員が接続について意見交換を行ったことで、各校園の取組について再考する一助にもなった。

③ 架け橋期コーディネーター活動の実施

＜市内園・小学校への巡回訪問及び研修支援の実施＞

○4～6月にかけて、市内全小学校（1年生在校10校）を訪問し、1年生の授業を参観し、実態把握に努めた。公開授業には1年生の出身園の保育者等も参加し、その後の連絡会では子どもの様子や校園の接続の状況等について情報交換を行い、園小連携の一助を担った。

○園での公開保育等に小学校職員が参加し園での学び等について協議を行う際には、アドバイザーとして参加し、園での教育・保育について分かりやすく解説したり、交流会のあり方等についてアドバイスを行ったりなどした。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：岡山県美作市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

既存の組織を有効に活用しながら「架け橋プログラム検討会議」を設置し地道に取り組んできた連携・接続の取組の質の改善を図りながら、2年間の架け橋プログラムへとつなぐ。大原小学校区を市のモデル推進校に指定し取り組む。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 架け橋プログラム検討会議の開催
- ・ 大原小学校区カリキュラム開発会議の開催
- ・ 架け橋プログラム研修①
- ・ 架け橋プログラム研修②（教員の保育体験）
- ・ 架け橋プログラム研修③
- ・ 架け橋プログラム園小訪問保育授業参観協議

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋プログラム検討会議の様子＞

「美作市保こ幼小の架け橋プログラム検討会議設置要綱」に従い2回の会議を実施した。架け橋期コーディネーターが、本市が積み上げてきた連携・接続の質の改善を2年間の架け橋プログラムへと推進すること、大原小学校区を指定して進めること等、方針説明や協議をした。2回目では、架け橋プログラムの実践報告から、検証・改善し、次年度取り組むことを協議した。



＜大原小学校区架け橋期カリキュラム開発会議の様子＞



8月から開始し3月までの計5回開発会議を開催。それぞれの担任と園長、小学校コーディネーター、教育委員会の架け橋期コーディネーターが集い共感的理解をしながら進めていった。大原小学校区架け橋期カリキュラムが出来上がった。今後は、毎年検証しながらカリキュラムの改善に努めていく。

＜架け橋プログラム研修③の様子＞ 1月22日実施

5歳児・1年生担任・接続担当者を対象に研修会を実施。指導係長と架け橋期コーディネーターによる美作市の教育や架け橋プログラムの説明の後、大原小学校区の「秋となかよし友達となかよし（園小交流）」の実践発表。グループに分かれ演習・協議。小学校区でできる架け橋プログラムの工夫や改善点を話し合った。次年度に向けて共通実践するとともに「主体的・対話的で深い学び」を園から小へ滑らかに繋ぐ架け橋プログラムの推進となった。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：広島県広島市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

本市では、市長事務局（こども未来局）と教育委員会事務局が連携・協力して広島市乳幼児教育保育支援センターを運営している。34名の架け橋期のコーディネーター（兼乳幼児教育保育アドバイザー）（以下「コーディネーター」という。）を配置し、関係団体と連携しながら、公立・私立を問わず、市内全ての幼稚園・保育園・認定こども園等を対象として、幼児教育と保育の一体的な質の向上及び幼児教育・保育と小学校教育との円滑な接続に向けて取り組んでいる。

【令和7年度における主な取組内容】

- 1 乳幼児教育保育の質の向上に関する懇談会（兼幼保小の架け橋プログラムの推進に向けた検討会議）、人材育成のための意見交換会の開催
- 2 コーディネーターの育成・派遣
- 3 広島県乳幼児教育支援センターとの連携
- 4 幼保小接続に関する各種研修会の実施
- 5 市立幼稚園における実践研究及びその成果の普及・就学前のこどもを持つ保護者に対する子育て支援
- 6 本市内の私立・公立の幼稚園・保育園・認定こども園等の職員を対象とした各種研修会の実施
- 7 公立の幼稚園・保育園が連携した公開実践（公開保育）の実施

【取組内容の具体的な事例】

＜コーディネーターを活用した幼保小接続の取組＞

小学校が近隣の幼児教育・保育施設との幼保小接続に係る研修会等を開催するに当たって、コーディネーターを活用した。

- ・ 小学校と近隣の幼稚園・保育園等が開催する幼保小接続合同研修会の開催に当たり、研修会の講師としてコーディネーターを派遣した。小学校と近隣の幼稚園・保育園等の職員が、講師の話を踏まえ、語り合いながら学ぶことにより、幼保小接続に必要な視点について、共通理解及び相互理解を深めることができた。

【研修会の様子】



- ・ 小学校教諭が保育参観する取組にコーディネーターを派遣した。参観前のコーディネーターの助言により、小学校教諭はこどもの姿や保育について、参観の視点を持って保育参観し、参観後の振り返りでは、小学校の生活や学習につながる就学前のこどもに育まれている力について確認した。

〔参観後の助言の様子〕



＜令和7年度広島市幼保小の架け橋プログラムシンポジウム＞

本市の幼保小連携の研究指定園・校の取組について、前半に実践者発表及び助言者を踏まえたトークセッションを行い、後半は講師による講演を行った。

【助言者・講師】

学校法人渡辺学園

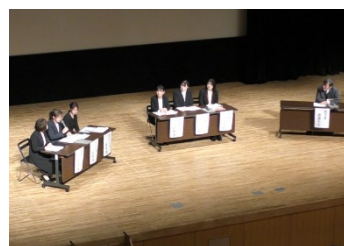
港北幼稚園・認定こども園ゆうゆうのもり幼保園

理事長・園長 渡邊 英則 氏

【対象】

広島市内の公立小学校、公立・私立の幼稚園、保育園、認定こども園等に所属する小学校教諭、幼稚園教諭、保育士等

〔トークセッションの様子〕



＜令和7年度各区における幼保小接続に関する合同研修会＞

本市内の公立・私立の小学校、幼稚園・保育園等における小学校教諭、幼稚園教諭、保育士等が一堂に会し、講演を踏まえながら意見交換を行うことにより、小学校の教育との円滑な接続に必要な視点や考えなどについて共通認識を持つことができた。

【講師】

広島大学大学院人間社会科学研究科 教授

広島大学附属幼稚園 三原園舎・東広島園舎

園長 中坪 史典 氏

【講演】

「こどもの視点から考える幼児教育と小学校で大切なこと：保育者と小学校教諭の対話を通して」

〔講演の様子〕



＜架け橋だより（広報）＞

- ・ 幼稚園・保育園・認定こども園等の幼児教育
- ・ 保育施設及び小学校において、幼保小接続の

取組の参考となるよう、架け橋期の教育・保育
を実践している園等及び小学校の取組を紹介す
る「架け橋だより」を作成し情報発信を行った。
情報発信の主な内容

情報発信の主な内容	
第1号	1年生担任の様子
第2号	小学校と近隣園による研修会

【架け橋だより】



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：山口県周南市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

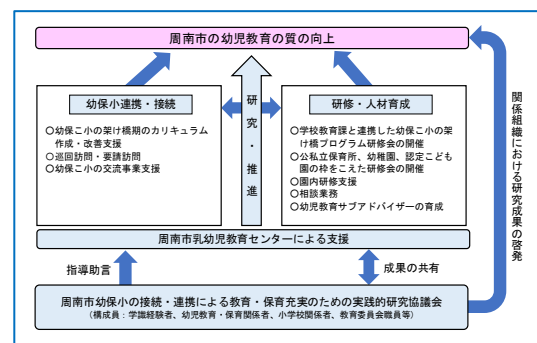
本市では幼保小連携アドバイザー・幼児教育アドバイザー各2人体制で架け橋プログラム推進に取り組んでいる。今年度の訪問回数は延べ222回、訪問実施の割合は小学校100%(27/27校)、幼稚園・認定こども園・保育所85.7%(36/42園)となった。架け橋期のカリキュラム策定割合は小学校100%、幼稚園等90.5%の状況である。各合同会議でカリキュラムの策定・改善に取り組む中で、カリキュラムの効果的活用と持続的なPDCAの実施が課題となっている。

【令和7年度における主な取組内容】

- 「周南市幼保小の接続・連携による教育・保育充実のための実践的研究協議会」開催
(令和7年5月27日(火)・12月18日(木))
- 周南市幼保こ小の架け橋プログラムオンライン研修会の開催
(令和7年7月1日(火)・8日(火)・9日(火)・10日(火))
- 周南市幼保こ小の架け橋プログラム研究推進大会の開催(令和7年11月4日(火))

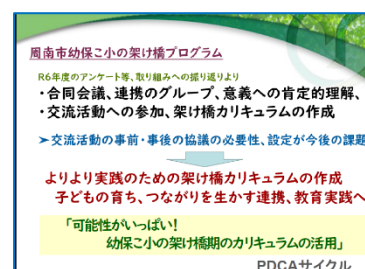
【取組内容の具体的な事例】

- 架け橋プログラム開発会議の役割を担う「周南市幼保小の接続・連携による教育・保育充実のための実践的研究協議会」
本協議会は、県内国公立大学及び市保育協会・幼稚園協会・小学校校長会・学校教育課等の委員で構成し架け橋プログラム推進について意見をいただくとともに、各団体等の連携・協働に力を発揮していただいております。架け橋プログラム推進に欠かせない組織となっている。



- 周南市幼保こ小の架け橋プログラムオンライン研修会の開催

令和6年度に小学校区を単位として、市内保育所・認定こども園・幼稚園全園と全小学校の参加による架け橋プログラム合同会議をスタートして2年目となる。そこで、架け橋期のカリキュラム協議が主に実施される7月下旬～8月の直前に、架け橋期のカリキュラムのPDCAの在り方について共通理解を深めることを目的としてオンライン研修会を実施した。参加者のアンケートから、カリキュラ



ムについての考え方を再認識することができたという声が多く見られ、各合同会議でのカリキュラム協議の充実に資する研修会となった。

＜事後アンケートの感想より（一部抜粋）＞

- ・「カリキュラムの基本的な捉え方や基盤となる考え方などを再認識することができた。今後も園との交流や共通理解を推進し、さらなるカリキュラムの充実に尽力していきたいと思う。」（小学校教諭）
- ・「小学校での学びに向かう手立てとして幼児期に遊び込んだ先に得た学びが子どもの中の引き出しとして大きな力になっていることが分かりました。」（保育士）」

○ 周南市幼保こ小の架け橋プログラム研究推進大会の開催（令和7年11月4日（火））

本大会は、園・小学校関係者と架け橋プログラムの成果と課題を共有するとともに、幼児教育及び架け橋プログラムの取組について保護者・地域住民の理解を深め、参画推進につなげることをねらいの一つとして開催した。

当日は、保護者、学校運営協議会委員を含めた会場参加者141人、北は青森から南は沖縄まで全国各地からオンライン参加者143人という多くの参加があった。内容は、資料1のとおりである。

事例発表では幼稚園教諭・小学校教諭に加え、学校運営協議会委員の方に地域全体で園児・小学生も含めた子どもの育ちや学びを支えている貴重な実践例のご発表をいただくことができた。

講師からは、各事例の価値付けをいただくとともに、「幼保こ小の架け橋プログラムによるこどももまんなか社会実現へのアプローチ」という演題で多くのご示唆をいただくことができた。

大会会場の様子



資料1 大会の主な内容

【事例発表】

- ・ ビデオ視聴「架け橋プログラムとは」
- ・ 事例発表1「子供たちの“やってみよう”に寄り添って…」
周南市立須々万幼稚園教諭
- ・ 事例発表2「子どもの言葉からつなぎ広げていく幼保こ小連携」
周南市立久米小学校教諭
- ・ 事例発表3「みんなでみんなを育てよう～実践中の菊川地区～」
周南市立菊川中学校学校運営協議会委員

【基調講演】

【グループ協議】

「今後の取組を語り合おう！幼保こ小の架け橋プログラム」



活発な協議が行われた分科会

※ 内容（ ）内は所属等

- 1 大人が口出しせず見守ることで子どもの創造や発想力を育むということを大事にしたいと思いました。目の前の子どもから幼児を理解することが大事だと思います。（保護者）
- 2 子どもの言葉を聞く、遊び・体験を大切にしたい。今後も保護者としても参加できたら嬉しいです。貴重な体験をさせていただきました。（保護者）
- 3 子どもたちをどんどん引っ張るというより自由な発想や取組を支援することにし、じっくり待つことが大切だった。（学校運営協議会委員）
- 4 「子どもと主語として関わり方（環境）が大切なんだということ」「時間はかかってもしゃべらない息がせないことも大切なこと」が心に残る言葉でした。（学校運営協議会委員）

保護者・学校運営協議会委員の方の意見に、主体性育成の重要性が多く見られた。

また、大会後半には保護者・学校運営協議会委員・保育者・小学校教諭等を交えたグループ協議を実施し、意見が活発に交わされた。

当日アンケートには幼児教育について理解を深め「地域社会全体で子供の育ちや学びを支えていきたい。」という保護者・学校運営協議会委員の方の思いが多く記されており、センターとしても

架け橋プログラムを地域・保護者に開いていくことの大切さを実感する貴重な機会となった。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：香川県高松市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

テーマを「子どもの学びをつなぐ持続可能な保こ幼小連携・接続」とし、「推進会議」の設置、推進校区等へのコーディネーター等の派遣、合同研修会等により、多様な施設類型や複数の施設間の連携、学びを共有する仕組みづくり、学校・園所全体での持続的な体制づくりを図り、市内47校区全ての校区での取組を推進する。

【令和7年度における主な取組内容】

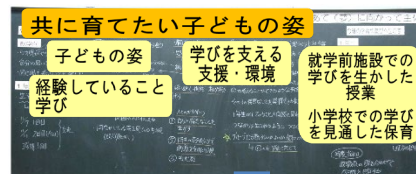
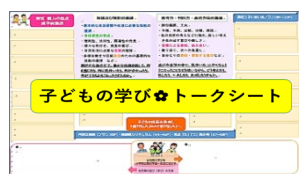
- ❖ 推進校区サポート
- ❖ 電話一本で訪問サポート
- ❖ 協議方法のオンデマンド映像提供
- ❖ 「Step Guide Book」等を活用した研修の実施
- ❖ 「引継ぎメモ」「学びをつなぐ架け橋パック」の開発と提供
- ❖ 「つながる ひろがる 架け橋の輪」(刊行誌)による情報提供
- ❖ 関係部局・団体間の情報共有・提供の実施



【取組内容の具体的な事例】

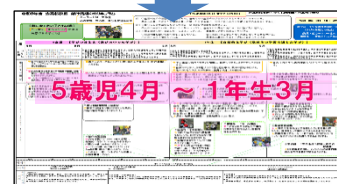
❖ 推進校区サポート ❖ 電話一本で訪問サポート

- ・ 子どもの姿を可視化・共有し、学びの連続が見えるカリキュラムとなるよう、コーディネーター等がファシリテーターとして訪問、サポートしている。
- ・ 共通のシートや映像を活用し、具体的な子どもの姿を基に子どもの学びを見取り伝え合う。その際、「分析シート」の項目に沿って意見を板書し可視化することで学びの連続性等を共有できるようにしている。



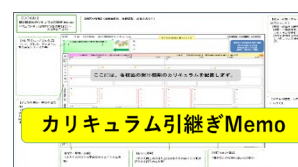
❖ 協議方法のオンデマンド映像提供

- ・ 相互参観・協議する合同研修会の内容を事前に視聴し協議進行として活用することで、安心して対話し、子どもの学びを共有する場となっている。



❖ 「引継ぎMemo」「学びをつなぐ架け橋パック」の開発と提供

- ・ 協議で共有したことをその都度メモしたり、校区共通のデータを格納したりすることで、担当が替わっても次年度に引き継げるようにしている。



【成果】

- ◇ 互恵性・フラットな関係性の構築
- ◇ 「子ども主体」への価値観の転換
- ◇ 「架け橋期」を見通した専門性の向上
- ◇ 個別最適な支援の充実



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した 幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：福岡県北九州市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

北九州市幼児教育センターは、市内全幼稚園等への訪問を通じた実態把握とニーズに応じた支援に努めている。架け橋プログラムでは、カリキュラムの研究・開発を中心とした北九州市架け橋プログラム検討会議（以下「検討会議」）を本年度設置した。また、協議会や研修、訪問支援を通して幼児期から児童期への円滑な学びの接続を全市的に推進している。今後の課題は、保幼小連携・接続のさらなる推進である。

【令和7年度における主な取組内容】

○検討会議の設置

- ・実践モデル校区の選定
- ・北九州市版架け橋期のカリキュラムの策定

○保幼小連携・接続研修会の実施

○架け橋期のコーディネーターによるモデル校区の連携・接続に係る訪問支援

【取組内容の具体的な事例】

<検討会議の様子>

本年度新たに設置した検討会議では、関係者が参集し、保幼小接続・連携の現状や課題について協議・情報共有を行った。年3回の会議の中で、モデル校区の選定（3校区）と支援状況の報告、北九州市版架け橋期のカリキュラムの検討及び策定をした。



<保幼小・連携接続研修会の様子>

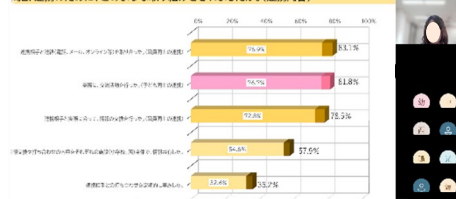
「令和7年度保幼小連携・接続研修会（オンライン）」を12月1日に実施。市内の連携・接続の現状を報告し、カリキュラムの説明や作成に向けたスケジュールを示すことで、連携や接続の重要性を示した。また、子ども家庭局と連携して市内の幼児教育施設にも研修会への参加を呼びかけ、全市で取り組むべき共通の目標を共有した。

◇共催：教育委員会、子ども家庭局（こども施設企画課）

◇対象：市内幼児教育施設、小学校、特別支援学校の管理職及び連携担当者

◇講師：鳴門教育大学大学院 木下光二教授

図2. 連携のために、どのような取り組みをされましたか。（連携内容）



＜モデル校区の連携・接続に係る支援の様子＞

モデル校区の連携・接続の場にコーディネーターを派遣し、取組への価値付けをしていただいた。実践の価値を子どもの育ちと制度の両面から言語化することで、現場の先生は、取組を負担としてではなく教育的に意味のある実践として捉えるようになった。また、園と小学校の違いを共有し、方向性を検討することができた。



令和 7 年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：長崎県大村市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

令和 6 年度、当支援センターが主催する「幼保小連携・接続連絡協議会」を「大村市架け橋期のカリキュラム開発会議」として位置づけ、大村市のカリキュラムモデルを作成した。令和 7 年度は、それを基に校区别で架け橋期のカリキュラムの協働作成に着手することを目標に掲げ、当支援センターの業務を相互に絡めながら、連携体制構築の基盤作りを行った。

【令和 7 年度における主な取組内容】

- 幼保小合同研修会の企画・実施
- 幼保小連携・接続連絡協議会（架け橋期のカリキュラムの検討会議）の開催
- 校区别幼保小連携活動支援
- 幼保小連携推進モデル園との共同研究

【取組内容の具体的な事例】

〈幼保小合同研修会の様子〉

教育委員会と共同して年間 4 回の合同研修会を実施した。

「校長・園長」「各職員」「1 年生担任・5 歳児担任」と対象者を分け、縦と横がつながりを持ちながら相互理解を深められるよう、いずれの研修会においても講義と併せて校区别協議の時間を設けた。



6 月の校長・園長対象の研修会では、小学校の生活科の単元の中での連携活動を提案するとともに、架け橋期のカリキュラム策定に向けて「目指す子供像」を校区别で設定した。9 月の各職員対象の研修会では、事例を通した「10 の姿」の読み取り、2 月の 1 年生担任・5 歳児担任対象の研修会では、4 月の就学に向けて円滑なスタートがきれるようスタートカリキュラムの取組を通して互いに留意することについて話し合った。また、11 月には公立のこども園の保育を公開し、参観シートを用いてカリキュラムに落とし込めるように配慮した。校区内での顔の見える連携が進み、資質・能力をつなぐための工夫が見られ、公私問わず横同士がつながり園児同士の交流を主体的に行う校区も出てきた。

〈幼保小連携・接続連絡協議会（架け橋期のカリキュラムの検討会議）の様子〉

保育所・認定こども園、小学校、教育委員会、当支援センターからの計 17 名と、専門分野アドバイザー（長崎大学准教授）1 名で構成された協議会を年 3 回実施した。「架け橋期のカリキュラム」についてモデルを基に校区で作成する際の留意点や評価・改善の

ポイントなどを共有した。

〈架け橋期のコーディネーターによる校区别幼保小連携活動支援〉

合同研修会の中で提案した、小学校の生活科の単元「たのしいあきいっぱい」「もうすぐ2年生」の中での連携活動支援を園や小学校からの要請を受けて行った。

交流計画シートを用いた事前の打ち合わせ、交流会、事後の振り返り、架け橋期のカリキュラム作成などの協議に参加し共に検討した。



協議の場を、小学校だけではなく園でも行い保育の様子を見合うことは、縦だけではなく横のつながりをもつ取組のひとつとなった。架け橋期のカリキュラムを作成するにあたっては、園数が多く策定には時間を要する校区もある。まずはカリキュラムに連携活動を位置づけ、子供をまん中にした話し合いを丁寧に行うことが重要であることを確認した。

依然として、連携を進めるにあたって日程調整や時間確保の難しさや意識に差違はあるが、それぞれが手応えを感じられるよう、校区に応じた支援を学校教育課と連携しながら進めていきたい。

〈幼保小連携推進モデル園との共同研究〉

公立のこども園を中心として、令和6年度から引き続き「子どもの学びと育ちをつなぐ架け橋をめざして」を研究テーマに掲げ、近隣の小学校、私立保育園との連携を密にしながら取り組んだ。子供だけではなく職員自身も「やってみよう」と前向きな姿勢でつながり、普段から隙間時間を利用するなどして、互いに行き来できる関係を構築することが円滑な接続には欠くことのできないいちばん大切な要素であることがわかった。



「目指す子供像」を設定し、連携活動をカリキュラムに位置づけ、交流活動計画シートや参観シートを用いて、ねらいや気づきを伝え合う中で共感的理解が深まった。園では小学校生活を見通した遊びや生活の環境構成や援助を工夫し、子供の資質・能力が育まれる過程などをより丁寧に捉えるようになった。小学校では、幼児教育で育まれた資質・能力を活かした授業展開や、子供が主体的に対話をしながら学びに向かうような関わりを工夫するようになった。



また、園の保護者向けのアンケートで得た就学前の保護者の不安感を小学校と共有したり、小学校との連携活動の様子や幼児教育の意義をドキュメンテーションを用いて保護者や地域へ発信したりなど理解啓発を図った。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：大分県佐伯市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

こども園、保育所（園）、幼稚園及び小学校の相互の連携や理解の促進を図り、一貫した指導体制を確立することで、子どもの学びの連続性を確保するとともに、幼児教育・保育の質のさらなる向上を図る。本市では福祉部局と教育委員会が連携し、『佐伯市保幼小連携協議会』を核とした推進体制を構築することで、地域全体で『架け橋プログラム』の具現化に取り組んでいる。

【令和7年度における主な取組内容】

年2回、幼児教育施設、小学校、発達支援センター等が参画する『佐伯市保幼小連携協議会』を開催した。協議会では、幼児教育・保育に関する情報共有、小学校への円滑な接続のための教育方策等の協議を行い、具体的な取組につなげた。これらの多角的な取組を通じ、校種を越えた連携・接続を推進したことは、幼児期の教育と小学校教育双方の充実・発展につながった。

【取組内容の具体的な事例】

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：大分県竹田市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

竹田市では「たけたんスマイルブリッジプロジェクト」として、こども家庭センターと学校教育課の協働により、架け橋期のカリキュラム開発と切れ目のない発達支援を推進している。合同研修会や公開授業・保育を通じて、幼保小の教職員が子どもの姿を基に協議する体制を構築し、学びの連続性を重視した実践が市内全域に広がりつつある。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・架け橋期カリキュラムの検証（1年部会）
- ・幼保小合同研修会の実施（授業参観・保育参観・協議）
- ・モデル校・園による公開授業・保育の実施
- ・作業療法士による運動プログラムの実施（全園・全校）
- ・幼児教育アドバイザーによる訪問支援
- ・保護者への啓発活動の実施

【取組内容の具体的な事例】

＜モデル校・園による公開研究会の様子＞

モデル校（竹田小学校）及びモデル園（竹田幼稚園）において公開授業・保育を実施し、市内の教職員が参観した授業・保育参観後、同じ子どもの姿を基に協議を実施。子どもの良さや成長の要因を共有することで、指導や保育の見直しにつながり、幼保小の接続に対する理解が深まった。



＜作業療法士による運動プログラムの様子＞写真

作業療法士と連携した運動プログラムを実施し、子どものバランス能力向上が見られた。発達支援の視点が教職員に共有され、教育と福祉の連携強化につながった。



＜合同研修会（授業参観・協議）の様子＞写真

授業・保育参観後、同じ子どもの姿を基に協議を実施。子どもの良さや成長の要因を共有することで、指導や保育の見直しにつながり、幼保小の接続に対する理解が深まった。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：沖縄県豊見城市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

令和4年度から幼児教育アドバイザーを配置し、令和5年度に市の幼児教育の拠点となる「豊見城市幼児教育センター」を保育こども園課内に設置。教育指導課（教育委員会）と連携を図りながら、モデル校区の活動を中心に市内全校区で接続に取り組んでいけるよう体制を整えている。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・ 保幼小推進協議会の開催（4月）
- ・ スタートカリキュラム期小学校訪問（4月）の実施
- ・ 保幼小連携連絡部会（5月・2月）の開催
- ・ 架け橋期モデル校区公開授業（6月）、公開保育（7月）及び合同研修会等の開催
- ・ 架け橋期のカリキュラム作成の推進（校区における会議等への参加・支援）
- ・ 架け橋期のカリキュラム検討委員会の開催（1月）
- ・ 園長・校長等管理職研修会（5月）、乳幼児教育保育合同研修会（8月）、保幼小合同研修会（1月）の開催

【取組内容の具体的な事例】

【スタートカリキュラム期小学校訪問の様子】

- ・ 安心した学校生活が送れるよう、幼児期から親しんでいる遊び道具が準備され、教室等の環境構成に工夫が見られた。



【保幼小連携連絡部会】

- ・ 校区で参集し、オンラインにて開催。今年度の保幼小連携推進事業の計画や、校区における取組について確認することができた。



【公開授業・公開保育及び合同研修会の様子】

- ・ 小学校と就学前施設が子どもの姿を感じ取りながら、互いの教育について話し合うことができた。また、講師による助言等で、幼児教育と小学校教育のつながりについて学び、架け橋期の教育の充実や理解を深めることができた。



【保幼小合同研修会の様子】

- ・ 架け橋期におけるカリキュラムマネジメントについて学び、校区間におけるさらなる充実に向けて振り返ることができた。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：沖縄県南城市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

これまでの幼保小接続に関する公開授業・公開保育を継続して取組み、今年度は新たに架け橋期カリキュラム開発会議を立ち上げ、モデル校2校・モデル園1園の架け橋期カリキュラムシートの作成に取組んだ。その他の園や小学校については、架け橋期カリキュラム研修会にて周知を行った。

【令和7年度における主な取組内容】

- 入学式前に1年担任を対象にスタリ研修会を実施。1年生スタート期の授業参観を開催。
- 架け橋期カリキュラム開発会議を立ち上げ、モデル地区が架け橋期カリキュラムシートを作成。
- 幼児教育施設の質向上が幼保小連携の大事な1つであり、まずは結節園の質向上に取組んだ。①有識者と園に出向き3要領・指針を基に直接指導。②共通テーマの下、園内研修の報告会を行い、有識者による指導助言・講話をいただいた。

【取組内容の具体的な事例】

＜架け橋期カリキュラム開発会議の様子＞（6月、8月、翌2月）

- 有識者、市内小学校校長・教諭、幼児教育施設園長・保育教諭、幼児教育センター長・アドバイザー・推進コーディネーター、指導主事、13名の委員と事務局で年3回開催。初めにセンター長より架け橋期カリキュラム研修会についての報告の後、カリキュラムシート作成に向かい忌憚らない意見が飛び交わった。

＜架け橋期カリキュラム研修会の様子＞（7月、10月、翌1月）

- 幼児教育センター長の“架け橋期カリキュラム”についての講話により理論での理解を図り、幼・小の実践例の発表の後、グループ協議で各自持参の子どもの写真を基に“遊びと学びのポイントは同じ、探究でつながる”との視点での語り合いを行った。



＜生活科の公開授業＆合同研修会の様子＞（5月中旬）

- 参観の視点を見直し、より深い観点の捉えが出来るようにした。また公開授業の振り返りとして有識者から指導助言を仰いだ。感想には「安心感と自己発揮が探究に向かう」「何故だろう・やってみたい！」が大事」などキーワードが入り込んでいるものが多かった



＜結節園質向上の様子＞

- 幼児教育施設が3要領・指針を理解し5領域に則った教育・保育をする事が「主体的・対話的で深い学び」につながるとの観点から、まず結節園（公私連携型認定こども園3園と公立の幼稚園・認定こども園：全5園）の質向上を目指し、地域のモデル園となっていくよう参集型ではなく有識者と各園に出向き直接指導助言をいただいた。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：沖縄県南城市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

○幼児教育施設園長・主任・保育者研修会

先進園の園長を講師に招き「子ども主体の保育」について、園長・主任・保育者別に実施した。市内の保育施設園長・主任・保育者が一堂に会し、子ども主体の保育への取り組みについて講話を通して園の教育・保育に活かし、乳幼児教育・保育の充実を図ることを目的とする。

○幼児教育施設保育訪問支援

幼児教育アドバイザーを中心に施設類型を問わず市内の全幼児教育施設41園の訪問を行う。事前に訪問日の月案・週案を提出してもらい、その後、提出資料をもとに振り返りを行った。「子ども主体の保育」「遊びこみ」指針・要領についての指導、助言も行う。

【令和7年度における主な取組内容】

○ 幼児教育施設園長・主任・保育者等研修会 （年3回：5月・6月7月）

○ 幼児教育施設保育訪問支援 （9月～12月）

参観の視点：子どもたちが、主体的に遊んでいるところ（子どもの姿から）
遊びこむ環境構成や援助の工夫がなされているところ

【取組内容の具体的な事例】

1、【幼児教育施設園長・主任・保育者等研修会】

講話：「一斉保育から子ども主体の保育へどう切り替えたか？」をテーマに実施した。

① 園長研修会（5月）

・きっかけは、「子ども主体の保育」を行っている園の公開保育に衝撃を受ける
これまでの我が園は、自由遊びを中断し朝の会。子どもたちの「やりたい」を引き出す環境になってない。子どもの遊びを止めていることに気づき
「子ども主体の保育」に変えなきゃと強く思った。

② 主任研修会（6月）

・職員の主体性を大事にするためには、①職員の「やりたい」ができる環境を整える。②職員を認める。③指示するのではなく、気づけるように、考えて行動出来るように関わる。

③保育者研修会（7月）

・環境を見直してみる。①いくつかの遊びの選択肢があるか。②子ども自ら手に取れるか。③今の子どもたちの興味と合っているか

2、【幼児教育施設保育訪問支援】

・子ども主体の保育について研修を受け園経営や保育に活かしてきた。
・保育者が、指針・要領を手元に置き、指導案作成や園内研修等で活用する園が増えてきた。
・幼児の主体性と保育者の意図をバランスよく絡める共主体の保育実践の研修の継続の必要性を感じた。
・振り返り及び懇談の中で園長・主任から、園が目指していること、今後の取り組み、自園のよいところを述べてもらうことで、職員間の関係性が深まった。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：沖縄県金武町

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

本町では、施設類型の違いに関わらず、すべての就学前教育・保育施設において質の高い幼児教育が提供されるよう保育者の専門性向上を図るとともに、幼児期から児童期への円滑な接続を目指した取組を実践している。保育者と教職員による相互参観や幼小のカリキュラム検討会等通して、教育内容のつながりを意識した取組の充実を図る。

【令和7年度における主な取組内容】

- 研修支援の実施
- スタートカリキュラムに関するリーフレットの検討、作成
- 交流・連携事業の実施
- 町内公立・私立保育者との県外視察研修の実施

【取組内容の具体的な事例】

＜保幼こ小中夏季合同研修会の開催＞

町内の就学前教育・保育施設の保育者と小・中学校教職員を対象に、夏季合同研修会を開催した。小中学校は悉皆研修として位置付けたことで多くの教職員が参加でき、公開保育や協議を通して、幼児教育の大切さや学校教育とのつながりについて学ぶ機会となった。



＜保幼こ小連携検討会の開催＞

幼児教育と小学校教育の相互理解を図るため、保幼こ小連携検討会を年4回実施した。児童の様子や教育内容等について情報共有を行い、発達段階に応じた指導の在り方について話し合うことで、子ども理解を深め、園と小のつながりを構築することができた。



＜幼児教育県外先進地域への視察研修＞

幼児教育センター職員および町内の就学前教育・保育施設保育者による県外視察研修を実施した。公私立の保育者同士の交流や意見交換を通して、幼児教育に対する理解を深めるとともに、地域全体での共通理解の形成と連携体制の強化につなげることができた。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：沖縄県伊江村

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

保幼小接続連携では、子どもたちの学びと育ちの連続性を確保するため、幼児教育小学校教育の「分断」を解消し、地域全体で子どもを見守る体制構築が求められています。「架け橋プログラム」は、5歳児から小学校1年生までの「架け橋期」を対象に、保幼小の教職員が協働してカリキュラムを作成し、相互理解を深めることで、遊びを通じた幼児期の学びを小学校の自覚的な学びに発展させる点に大きな特色があります。

【令和7年度における主な取組内容】

令和7年度は、園児が新しい環境にスムーズになれるため保育参観や、全職員が参加する村合同研修会を通じた指導体制の強化が図られています。また、保護者用アプリ「コドモン」の活用により、園と家庭、小学校間の情報共有をデジタル化し、連携の円滑化を推進しているのが特徴です。

【取組内容の具体的な事例】

＜第1回伊江村保幼小中連携推進協議会の様子＞

1 推進協議会の内容

《全体会 20分》

- ① はじめのことば・・・教育課長
- ② 自己紹介・・・各自
- ③ 会長の選出・・・事務局
- ④ 会長あいさつ・・・会長
- ⑤ 議事・・・会長



(1) 事業説明、年間計画について

(2) 保幼小中連携の取り組みについて

《情報交換 30分》

- ① 連携事業への希望等～

2 成果及び課題

- ・同僚と楽しく仕事がしたいとの向上心が伺えた
- ・前年度の研修を生かして子どもとの関わりを充実したいの意見

＜令和7年度 第2回 保幼小中合同研修会（学推と合同開催）の様子＞

1 推進協議会のテーマ

- ・保幼小中合同研修会
- ・研修会を通して、本村の教職員の資質向上を図るとともに、方向性を統一し、令和7年度の教育主要施策の実現をめざす。



2 推進協議会の内容

①伊江村の教育について「キャリア教育・学推・島建ちの教育」

②フッ素化合物洗口希望調査について

③講話「子どもを支える教師の役割」

～インクルーシブ教育の観点から～

講師：琉球大学 教育学部 教授 下條満代氏



3 成果

- ・子どもを笑顔で帰すことが保護者支援になるという気づき
- ・子どもの発達を捉え寄り添うことの大切さ＝それぞれの子に合うプログラム作り
- ・教師、保育者がわくわくすること。子どもを笑顔にする保育・教育に繋がる実感

4 課題

- ・寄り添う保育・教育の日々の実践経験の積み重ね
- ・課題を抱える教師が多く講演会後も講師を囲み話し合う場面

5 対応策

- ・継続的な15の島立ちに係る学びや講演会の開催
- ・課題を抱える教師の対処法



＜伊江村保幼小中合同研修会（夏季研修会）の様子＞

1 推進協議会のテーマ

- ・伊江村教育委員会夏季研修会

ねらい「本村の、幼児児童生徒を見取る視点、ICT 活用力に関する研修会を通して教職員の資質向上を図ることを目的とする」



2 推進協議会の内容

(1) 保育所参観 9:20～10:20 保育参観を通して保育士の「子どもを見取る視点」を学ぶ

講話・質疑 10:40～11:40 東保育所所長 大城郁美

(2) ICT 実践事例発表 ICT の実践事例を見て学ぶ 1:30～3:20

3 成果

- ・保幼小中職員の資質向上推進の取り組みとなる
- ・保育環境や保育士の子どもへの寄り添い方等の学び
- ・ICT の実践発表は現場に活かせる実践事例であるため参加者の学びに繋がり校種を越えた関係性も伺えた

4 課題

- ・保育所職員等の研修への参加の厳しさ（勤務体制等の調整）
（当日保育所所長のみの参加となる）

5 対応策

- ・継続的な15の島立ちに係る学びや講演会の開催
- ・県架け橋コーディネーター等の研修活用



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：沖縄県うるま市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

幼保小接続・連携に関して、こども同士の繋がりや教師観の教育・保育への相互理解が弱い現状があり、幼児教育施設と小学校の接続・連携が進みにくいという課題が見られる。そこで、長期的な見通しを持った計画を基に「架け橋カリキュラム」や「研修・協議会」等について、持続可能な実施体制を構築し、施設類型を問わず市全体の架け橋期の教育に関する質的向上を図っていく。

【令和7年度における主な取組内容】

- 市内各小学校スタートカリキュラム訪問し、その取組の様子を各施設へ好事例の紹介
- 幼保小に関する連携担当者研修会の開催・・・4月・7月・11月
- 市内各小学校区にて開催の連絡協議会（授業参観・協議・架け橋カリキュラムの作成）
- 幼児教育施設の訪問（保育参観・情報共有等）・・・8月・12月・1月
- 保幼小架け橋プログラム推進検討会の開催・・・2月
- モデル校に架け橋期コーディネーターを配置し、幼児期からの学びを繋げる取組

【取組内容の具体的な事例】

＜市内各小学校区にて開催「保幼小連絡協議会」の取組について（全3回）＞

→市内各小学校（17校）とその校区内の園をグループ化し、協議会を開催（17グループ）

- ・連絡協議会では、授業参観後、各小学校区での子どもの姿をもとに話し合い、こども達の姿に共通する「良さ」「課題」を確認した。それを踏まえて、「校区内のこども達に育て欲しい力や、「家庭・地域との連携」「幼小連携」についても協議した。その内容を基に、「各小学校区の架け橋カリキュラム」を作成した。



＜モデル校に架け橋期コーディネーターを配置した取組＞

- ・校区内の近隣園等へ積極的に訪問し、園の保育を参観したり、情報を共有したりして、地域のこどもの姿の実態把握をおこなった。
- ・園から小学校へのスムーズな接続を多角的に捉え、幼児期の学びを小学校の生活や学習へ滑らかに繋げていけるように、学年の先生方と共に授業内容の見直しや、工夫・改善を図った。



【成果】

- ☆各小学校区での参観や協議を計画的に実施したことにより、お互いの教育内容や校区内の課題等相互理解が図られ、それに基づいた架け橋カリキュラムが作成できた。
- ☆小学校へコーディネーターを配置することにより、こども達の姿を基に学習や生活面での見直しや工夫を図ることができ、改善を図ることができた。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：沖縄県宮古島市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

小学校区を7つのエリアに分け「保幼小エリア連絡会」を発足し、幼小接続・連携の軸として取り組んでいる。エリア全体会、各エリアの公開授業、公開保育を通して、良好な関係性が構築されたことにより相互理解が深まり、接続を見通した保育・教育の充実、架け橋期のカリキュラムの協働作成につながっている。今後は自立化、日常化を図っていく。

【令和7年度における主な取組内容】

- ① 幼小接続推進協議会の開催(年6回)
- ② エリア全体会(年3回)、エリアごとの公開授業、公開保育(年12回)
- ③ 幼小合同研修会の実施(保育参観、授業参観を行い、合同で振り返りを行う。)
- ④ 講師を招聘し、保育参観、授業参観から、本市の課題について共有

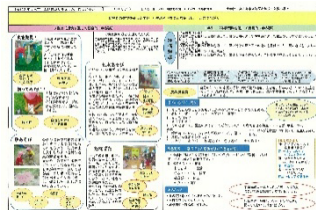
【取組内容の具体的な事例】

＜保幼小エリア全体会の様子＞

架け橋期のカリキュラムを具体化した実践シートの協働作成
幼児期の遊びが小学校の教科にどのようにつながっていくのか可視化するために、幼小共通実践の「季節」「飼育・栽培」を生活科の「あきとなかよし」「なつとあそぼう」「生きもののだいすき」の単元につなげることにした。幼児教育施設が、幼児の遊んでいる写真をもとに環境構成や援助について説明、小学校は単元で身につけたい力、単元の計画について提案し、その後協働で単元計画を作成した。
成果：接続を意識した保育・教育への理解が深まった。今後実践シートを蓄積し実効性のあるカリキュラムを目指す。



※授業参観後の協議会の様子



※実際の実践シート

＜幼小接続推進協議会の様子＞(2ヶ月に1回開催)

小学校長、子ども園、保育園園長、小学校、幼稚園教諭、
教育委員会、子ども未来課 計15名で構成。

- ◇本市の幼小接続の現状と課題の共有
- ◇幼小接続ハンドブックの内容の検討
- ◇入学児童の保護者への入学説明会資料の検討
- ◇先進地区の取り組みの共有

成果：多様な視点での協議は、本市の幼小接続の充実に寄与している。



令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：栃木県那珂川町

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

今年度新たに「こ小接続支援員」を配置したことで、認定こども園と小学校の連携がより一層深まっている。また「那珂川架け橋カリキュラム」を試行しながら、架け橋期の発達段階を見通した教育・保育の充実を図り、円滑な接続を目指している。さらに研修会の実施や、年長児と1年生の相互交流等の取組によって、子どもの育ちや学びが途切れないような支援に取り組んでいる。

【令和7年度における主な取組内容】

- (1) 第1回こ小連携研修会（今年度の方針の共有及び協議）
- (2) 第2回こ小連携研修会（年長児の保育参観及び講話）
- (3) 第3回こ小連携研修会（小学1年生の授業参観及び講話）
- (4) 第4回こ小連携連絡会議（来年度入学予定児に関する情報交換）
- (5) こ小接続支援員連絡会議（年間5回）

【取組内容の具体的な事例】

＜4月15日(火)第1回こ小連携研修会の様子＞

小学1年担任、年長担任、こ小連携担当、こ小接続支援員事務局が町役場に集まり、今年度の推進方針や「那珂川架け橋カリキュラム」について共有した。こ小接続支援員を囲んでの協議では、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換が行われた。



＜7月25日(金)第2回こ小連携研修会の様子＞

認定こども園において保育参観を行い、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を視点に年長児の姿を語り合った。さらに、「架け橋期に大切にしたいこと」に関する班別協議を通して相互理解を深める様子が見られた。



＜9月22日(月)第3回こ小連携研修会の様子＞

小学1年生「国語」の授業参観後、大学の言語聴覚学科長より講話をいただいた。本町の課題である子どもたちの言語力を育成するために、架け橋期の「言葉」を育む支援について実践に生かせる学びを共有することができた。



＜3月3日(火)第4回こ小連絡会議の様子＞

年長児担任と小学校の指導者同士が、個々の子どもの学習状況や生活、家庭環境、健康上のことなどについて直接情報交換を行い、円滑な接続を図ることができた。

令和7年度「幼児教育推進体制等を活用した
幼保小の架け橋プログラム促進事業」の主な取組概要

自治体名：埼玉県戸田市

【幼保小接続・連携に関する現状や架け橋プログラムの取組の特色等】

就学前からの非認知能力の育成に幼保小が連携して取り組み、学習意欲や協調性、忍耐力等学校生活の土台となる資質能力の育成が求められる。

本市では、非認知能力の育成を本事業の柱として、架け橋期に限らずその先も見据えて、幼保小が一体的に共通の目標やカリキュラムを検討・策定し、発達段階に応じて様々な体験活動や協働学習を充実させ、非認知能力の育成充実を図る「戸田型非認知能力育成架け橋プログラム」の実施に取り組んでいく。取組の実施に当たっては、コーディネーターによる伴走支援を行い、幼児教育アドバイザーの指導助言をいただく。

【令和7年度における主な取組内容】

- ・幼保小架け橋プログラム検討委員会、架け橋期のカリキュラム開発会議の実施
- ・モデル地区での児童・園児の交流や、研修会の実施
- ・先進取組市（横浜市）への視察

【取組内容の具体的な事例】

＜検討委員会・カリキュラム開発会議の様子＞

カリキュラム開発会議では、モデル地区の委員とアドバイザーが地域の子供の姿や幼保小連携の現状について情報共有を行った。地区の交流状況や子供の姿をもとに話し合いが行われた。検討委員会では、アドバイザーによる講演や、モデル地区での半年間の取組について情報共有を行った。幼保小連携の基本的な考え方について、共通認識をもつことができた。



＜モデル地区での児童・園児の交流や研修会の様子＞

モデル地区ごとに交流や研修会を行った。保育や教育の場面を参観し、それをもとに研修会を行ったり、振り返りを行ったりした。その際、幼児教育アドバイザーに派遣を依頼し、指導助言をいただいた。園児や児童の交流はこれまでもあったが、それぞれの現場を見られたことは、園にとっても学校にとっても大きな学びとなった。



＜先進取組市（横浜市）への視察の様子＞

横浜市立旭小学校では、1年生の授業を参観し、学校の取組について伺った。横浜市こども青少年局保育・教育支援課では、幼保小連携担当課長からこれまでの事業の取組等や市内での多様な取組について説明を受けた。

